

プレーパークで子育て親育ち (よちよちプレーパークと子育て相談)

コロナ課題解決型

事業費 398,813 円
助成額 300,000 円

●当初の課題・事業目的

各施設での人数緩和や、マスク着用の自由など、コロナの感染状況やその社会情勢は変化しているが、乳幼児に関してはその育ちなど、3年間のコロナ禍が影響しているところがあると思われる。また、保護者も他の保護者と話す場面が増えたとは言えるものの、屋外の方が安心できるようだ。そのため、事業の継続を通して、より乳幼児の育ちのサポートや保護者同士の繋がりを深め、子育て支援に寄与したいと思った。また「お客さん」になりがちな参加者自身が、主体的に取り組むイベントを企画運営することを実施し、地域の活性化をより加速することを目的とした。



代表 米山 清美

●事業概要

【よちよちプレーパーク】毎月第2第4月曜日 10:00~13:00

これまで同様に、乳幼児に特化したプレーパークとし、環境整備と共に、子育て経験のある小中学生の保護者にも見守りを依頼し、乳幼児保護者のサポートをする。プレーリーダーを配置し、子どもたちの遊びを見守る。

【子育て相談】毎月第2水曜日 14:00~15:30

助産師に加えて、薬剤師なども講師として入った。保護者が相談している間、子どもたちの遊びを見守る人を配置した。

【保護者主体のイベントの実施】7月30日サマーフェス、12月23日クリスマス

よちよちプレーパークの参加保護者を中心に企画運営して実施した。参加は一般の親子や小中学生も可としプレーリーダーがサポートした。



●事業の成果・工夫した点

近隣の保育施設とも連携して、乳幼児保護者への啓発に努めた。昨年からの継続したこともあり、在宅の保護者には定着してきたが、年々保活が早まり、2歳児はもとより1歳児すら在宅幼児は少なくなってきた。ただ、0歳児にも啓発してきた結果、育休が終わる前に外遊びに訪れるようになった。生後数ヶ月の子どもたちも訪れるようになり親子でリラックスする姿がみられた。

●苦勞した点・今後の課題

年々保育所に入れる子供の年齢が低くなっている。3年保育の幼稚園ではなく、0歳児から保育園に入れる保護者が増えている。職場復帰が早まっているのだが、ゆったり子育てをしようという子育て世代は減っている現状だ。今後の課題はそんな親子にとっての居場所を地域に作ることだと思われる。また職場の休業日などにも利用できる場や、地域とのつながりも必要だと思われる。

●代表者の感想

「児童館に行っていたが、9ヶ月の娘がハイハイをして誰にでも近づいていくので、ある保護者から疎まれたようなことがあった。それ以来児童館には行けず困っていたが、このプレーパークに出会って本当にうれしかった」と、初めて訪れた保護者が話していたことが印象的だった。母親はよちよちプレーパーク以外にも毎週のように訪れ子どもはしっかりと歩く活発な子になった。乳幼児期の親子を少しでも支えることが出来たら幸いで、協働事業が終了しても当会ではこの活動を続けていこうと思っている。